

書圖西遊譚

附本
三
支

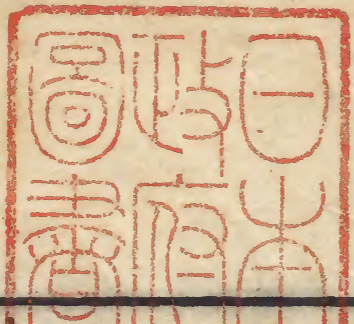
肆



庫文閣、內			
一七	三六		和
函	五九		書
一六	五九		
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 36599
冊數	5 (4)
函號	177 1008





所本

西遊旅譚卷之四

十一月十四日長崎を發して三里時津に到る十五日朝船

系風雨波のり大村領龜浦と云小島に到る程う船と

出て又小串と云る小島に到る島有船と出海岸を出

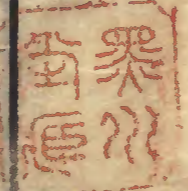
皆岩名雲母うり生大風雨と云茲泊十六日巳の刻

以船と出六里と走平戸領針尾瀬戸に到る大村領

左平戸領うり地の辨天沖の海に到る此半里程の中

山入組齧と云潮岸岩に碇泊し雲珠捲

ををり誤り乗入船忽沈むと又海底岩を抜出



西ハ白波トシ飛ホツクで沸湯クウ

のぬウ湖ホ海ミチをシおと

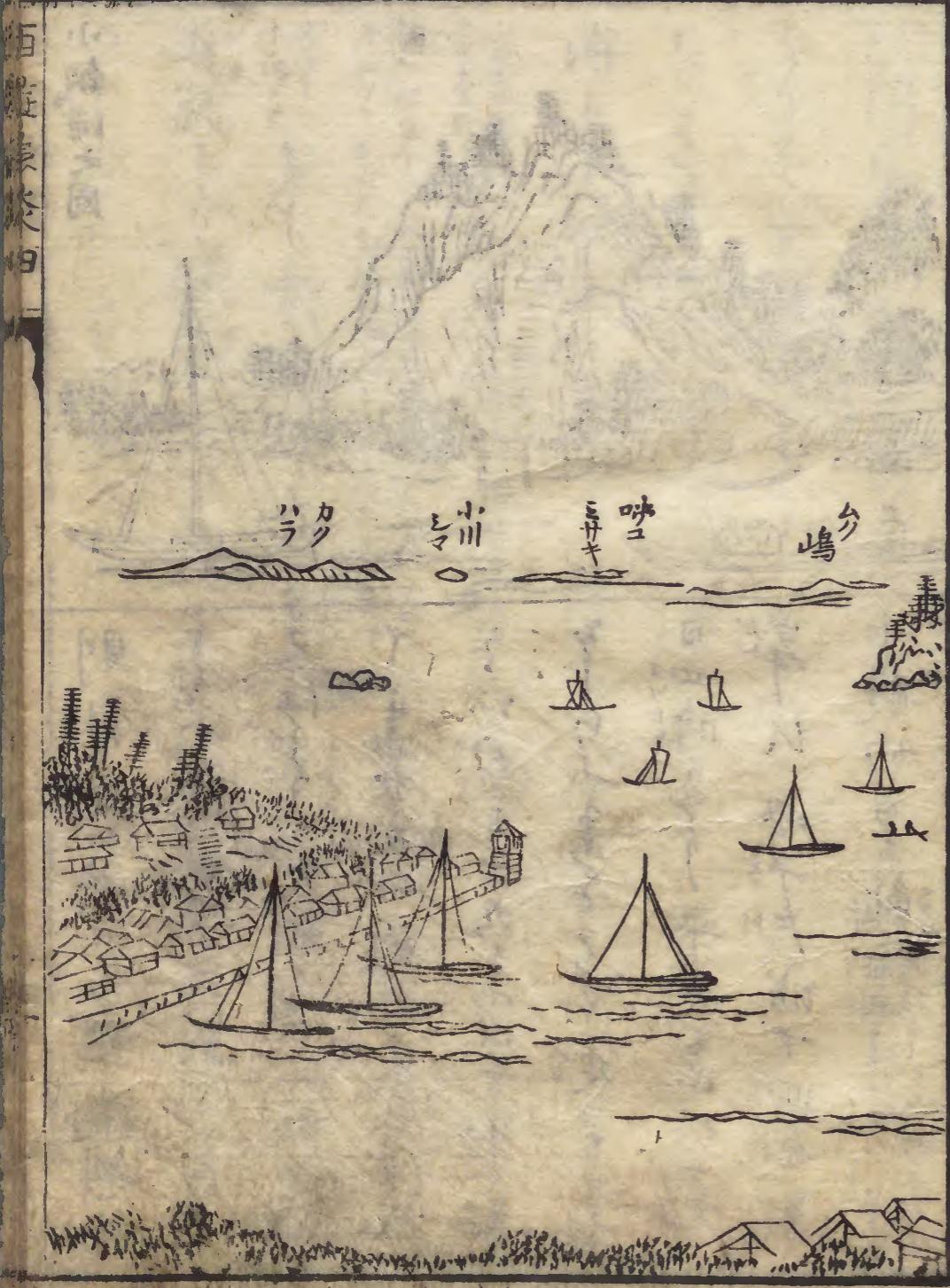
舟シ干シ湖ホにホ乗ラ



向ムカ所ノ長ナガ崎サキの方カタ々リ



平戸城下
勝吉山ヨリ
眺タル圖



小鯛浦之図



則針尾の瀬戸を越て小鯛浦
 小島に七時ほどに船とかけ
 又ほども大鯛浦に船と留
 ては秋丑の刻に東風に帆
 をあげ九十九島の石牛首
 をらふ島とるゝ走らす七
 日四時より平戸島に
 岸に海平戸城下廻船敷
 十艘かゝる

西国をこへにヒ
 大坂をこへにヒ

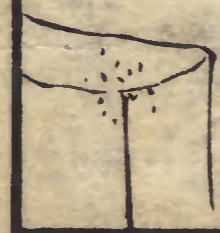
江戸をこへにヒ
 を後船おひに發し冬月時雨の風多に帆を
 ろうて笠懸灘をこへ下の関より夫より防州灘
 をこへて阿波の鳴門瀬戸をりる志戸の岡鳥羽
 浦より伊豆の東海を經て七八日して江戸に來る
 小田原町 又船中滞事ゆれは清く船よきし冷や
 新ハ伊豆し秋ふ漁りるのハ之四尺のよき
 平戸し五六尺劫那船京しハ丈余甚毒り
 此島暖おし
 橙サホン
 雪霜稀う赤大根赤蕪の菜茶をふん
 健名をいふ茶ふけ
 食事四度にき

西遊長史曰

ヨ

平戸城下觀音院の地内鐘ツリカネは支那より渡りて來りて
 實に支那物にして播州尾上乃鐘カネと同物なり其の
 觀音堂より小松重盛の觀音と云又阿部宗任ハチトリの塚あり
 昔と和蘭及イギリスより此處に船ツケより
 圓の扇カヒ今より石を運スルて來りて市街チヤウ乃
 橋ツキ石を以てけりて長崎の如く昔西洋の人フシヤク十一月廿三日
 至りて寺の開基支那僧カイキなり今に此日を祠ミヤの如く
 俗家ソクカにやび候等擣ツキ行イハふ
 觀音院地内鐘之圖

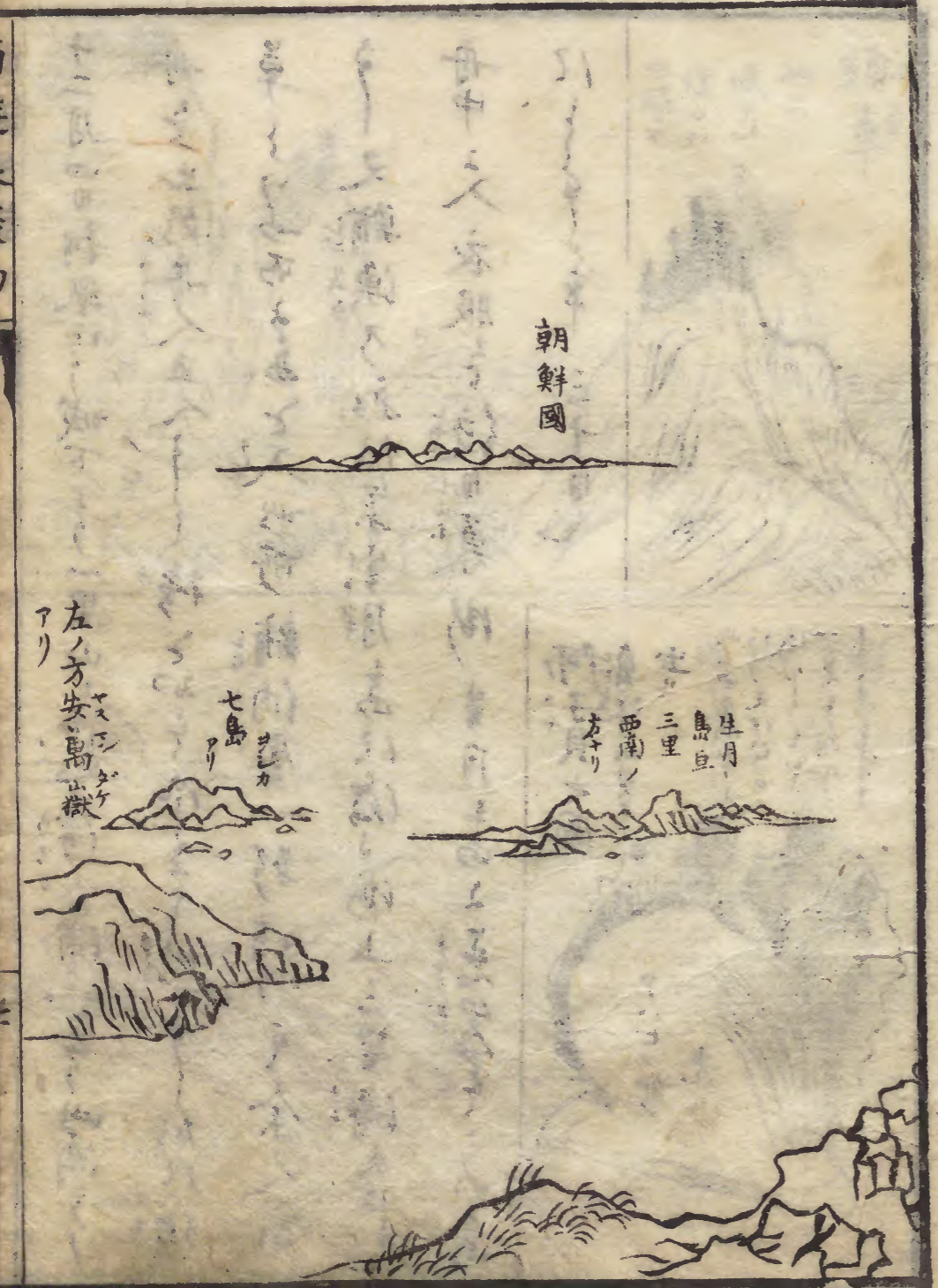
阿蘭陀牆



聖護院御願所平戸島觀音院
 奉施入鐘一口應永十二年未
 十二月日と彫りけり

天人樂器を鑄り





十二月四日朔風吹り城下より一里山を越薄香浦に到り此浦より
 舟を出り舟人五人一棹とありて風を以て行きて故に須
 草より少くありて入此所納屋一軒ありて余人家
 舟中入衣服を紋目暮御生月島に渡り海上三里濤大はて
 にはしりし事二十日



阿子貝之圖
 真珠ハ此貝ヨリ
 出ル

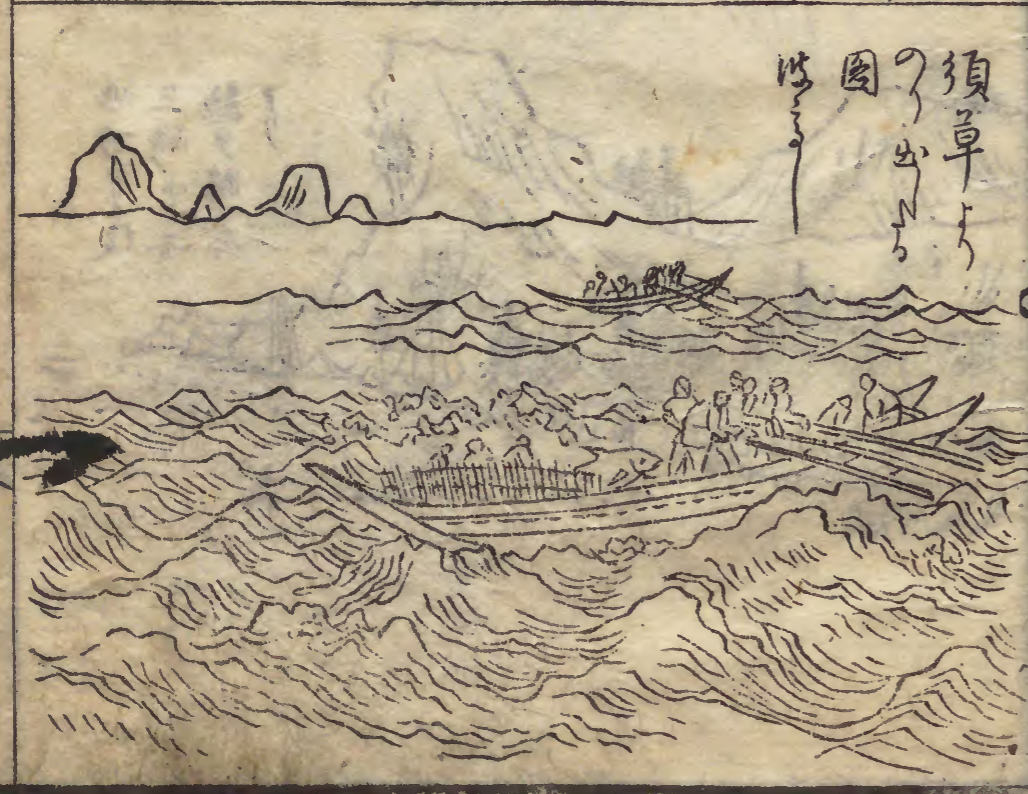
此處の海軍
 又伊勢の
 海ともいふ
 二見を相り
 ともいふ

須草

此所の
 城下の
 後田助
 の腸也



須草の
 出ル
 図



生月島之圖 巨三里



孩子嶽



五日四時より 童子山頂に
ついで 田夫の家より石を擧て
登りて 舎と作る 世所登る
嶺頂ふと 巖にき見ま
の 日一年雨三度にあ
西の方 暮色 国と
支那の地



童子山 嶽ニ
登山 中 小童
来 園ノ如シ



童子山 嶽ニ
登山 中 小童
来 園ノ如シ

此島海中より龍の天に昇事龍昇人よすれき海波
 手珠の如く捲りうり天より黒雲降其雲波とくく
 ど波きりうりひかり天上とくと鱗とくく魚の尾乃きり
 もれ雲れ中よりさがる即龍の尾あり故り此島のまは
 龍の昇とくく鱗の尾とくく漁又エイウハ日此島より
 ねかしくる不鱗漁とくく鱗の尾とくく月山
 岸とくくしりきり山に網に網と布一網
 二三百或四五百大漁乃くく千も入す

鱗網之圖



鮪漁



鮪又タカマツ
類
吟ん
不忌舟乃
きんま

氣味

入勢

西遊帳卷四

十三日此島も蝶拂しをけつり同日四時以鯨来りし
 ころより鯨船のつり格八艇一矢のこころを風
 吹らんに一は乃りぬり大山乃り一主刺舟の
 うち四方と乗廻りにタカツ一名潮と鳴き山に映し煙乃
 り一タカツある一鯨船と一タカツも別
 鯨を喰ふ魚をり鯨のり一そび放ふ舟を生月
 に之の舟中より西の方と望し山に唐画の
 十六日早朝鯨をゆる直る舟を来出はる
 されり一此島に鯨乃資と出る一とつとる

夫より舟ハ鯨のる方迄走尤平戸島と生月島乃皆
 の海より鯨のりし一り一そび放ふ舟を生月島の方迄
 らんそび放ふ舟より大島乃沖より一艇の
 船より鯨をえ真鯨と川旗をり一四方の舟
 鯨の方にむむし一十艘よりをりぬり
 鯨をばりし一鯨一巨鯨乃大洋海一飛動
 とるに波濤山のり一や一舟の乗一舟と三崎
 といふ所は日暮り初更なる
 岩石の端のそび放ふ舟

西遊集卷四

三崎、鯨と切解
 一居る一里の方

鯨漁之圖

鯨魚之出海也
其尾先出吹別
夫之尾吹別
投其尾吹別
之出吹別
底入



鯨舟ハ二十艘ト出
其舟ハ舟ト又
網ト出ハ雙海ト
名ハ
一結トハ網ハ二艘ト
通舟二艘ト此舟ト
三結ト出ハ三舟ト
六艘網舟ハ大船ト
是網ト積出ト

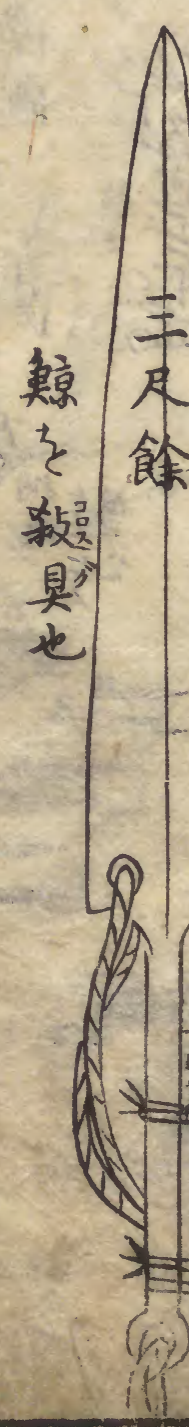


と此の余は此の海より字餘の越とて此の刺を執りて水に
 の傷の戦国より人の血を流し朱の色とて
 別大島の沖平戸の根島向海ありま岐の国對馬遠に
 朝鮮の大海より鯨の初更なる所あり
 湖に鯨乃半と隠れ全體ハ魚也
 此の物も是れを湖にて全體と海月の光り
 了る大十間餘の世美鯨也世美ハ鯨刺又之助曰この
 物刺すにわかれり半此の物も此の物とて及ぶ
 此の全體とて此の物も此の物とて

莫羅之圖又ヨロツ此製生鐵ナカチとて作鯨ワケ刺カチ入綱ツツとて
 半ナカより曲カマ 四尺五寸 柄トモニ長廿九尺



劍之圖 三尺餘 同ハヤト云 此圖のもの好くて 破刺具なり 柄共ニ一丈三尺余





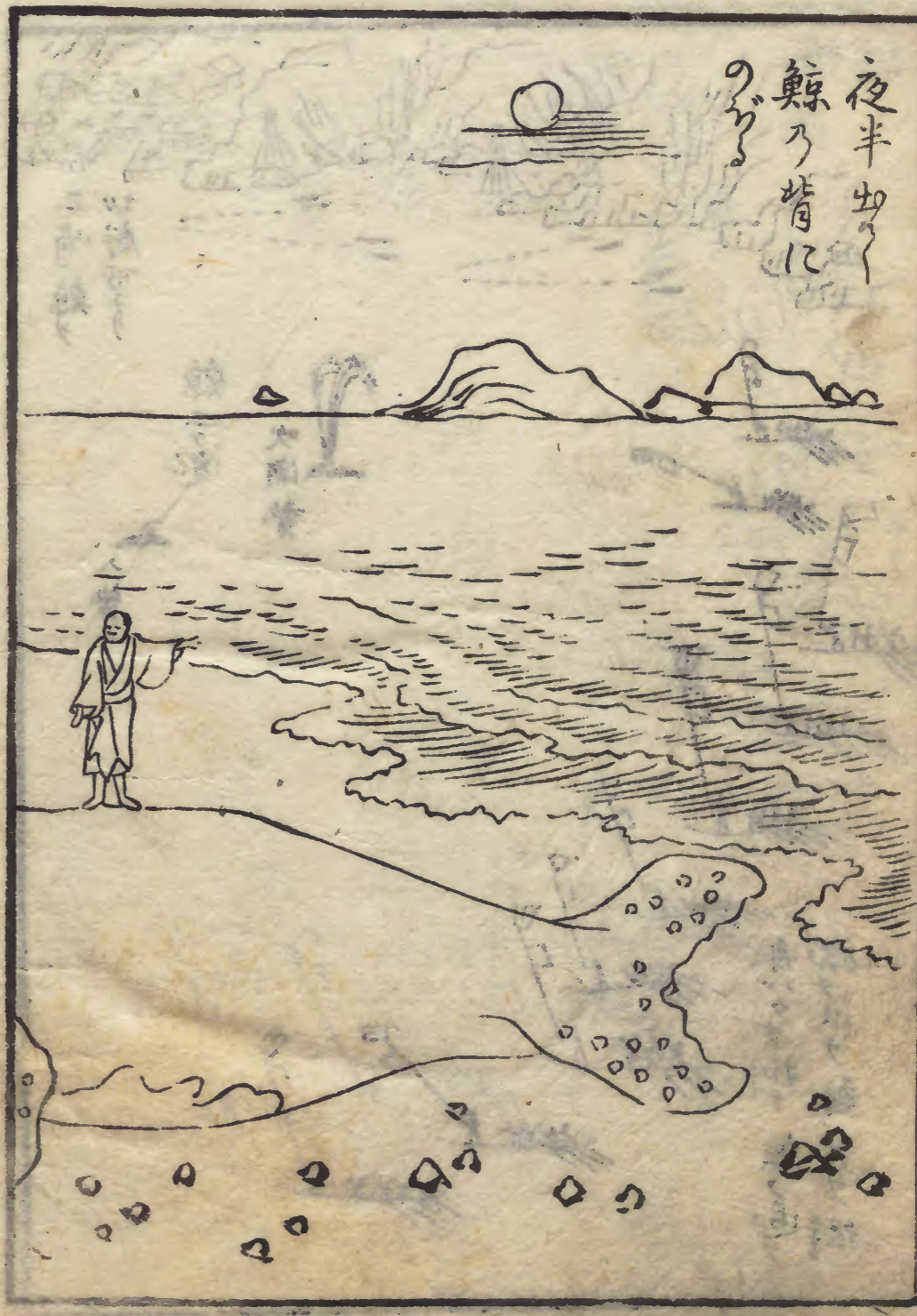
舟ハタラホテ鯨ヲ追フ
旗ヲ以テ鯨ノ方ヲ招



鯨ノ圖

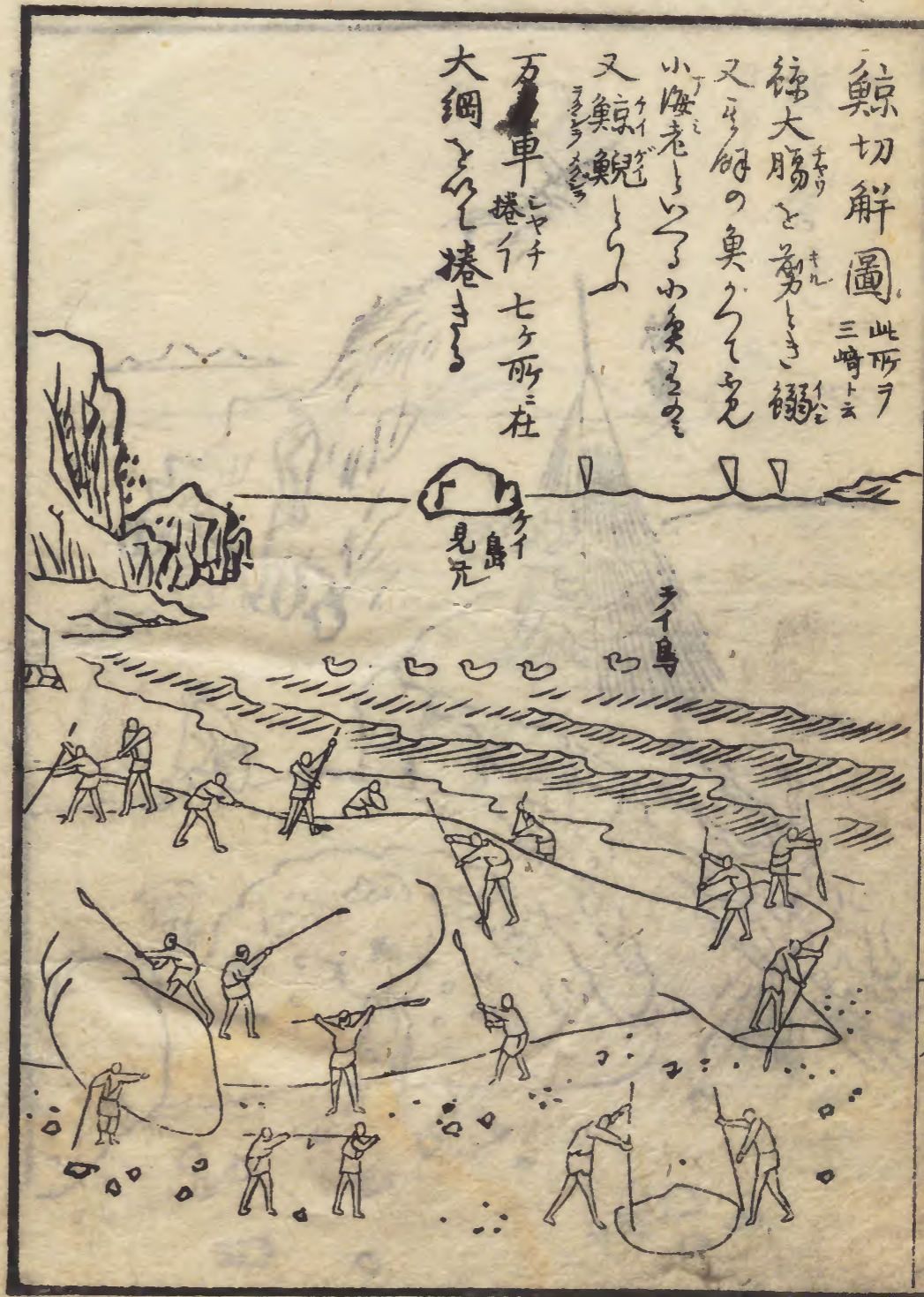


夜半ゆゑ
鯨乃背に
のびる





肉納屋
 腸納屋
 骨納屋



鯨切解圖 此所ヲ
 三崎ト云
 鯨大腸と勢トシキ
 又ハ解の奥トシテ
 小海老トシテ小魚トシテ
 又鯨魁トシテ
 万車トヤチ七ヶ所在
 大綱トシテ捲キ

見元

イ島



此島々々所産の鯨祝五品なり
 世々美鯨 上品味美大なるものハ十間 油或は骨と出せ
 長須鯨 中品味淡初産し 頭海上後入底走
 生以鯨 中品サ剛し又ハ骨も 味同長須
 兎鯨 下品剛極にし 骨も 母と破る
 弱鯨 下品ゆる事 稀なり 鯨の名にし 弱なり
 右各象異色 予見所のものハ世々美生頭之品をこそ解ハ見



生以鯨
腹の方
ウチリ

弱鯨

世美

此ハコ
コト



長須鯨
大九尺

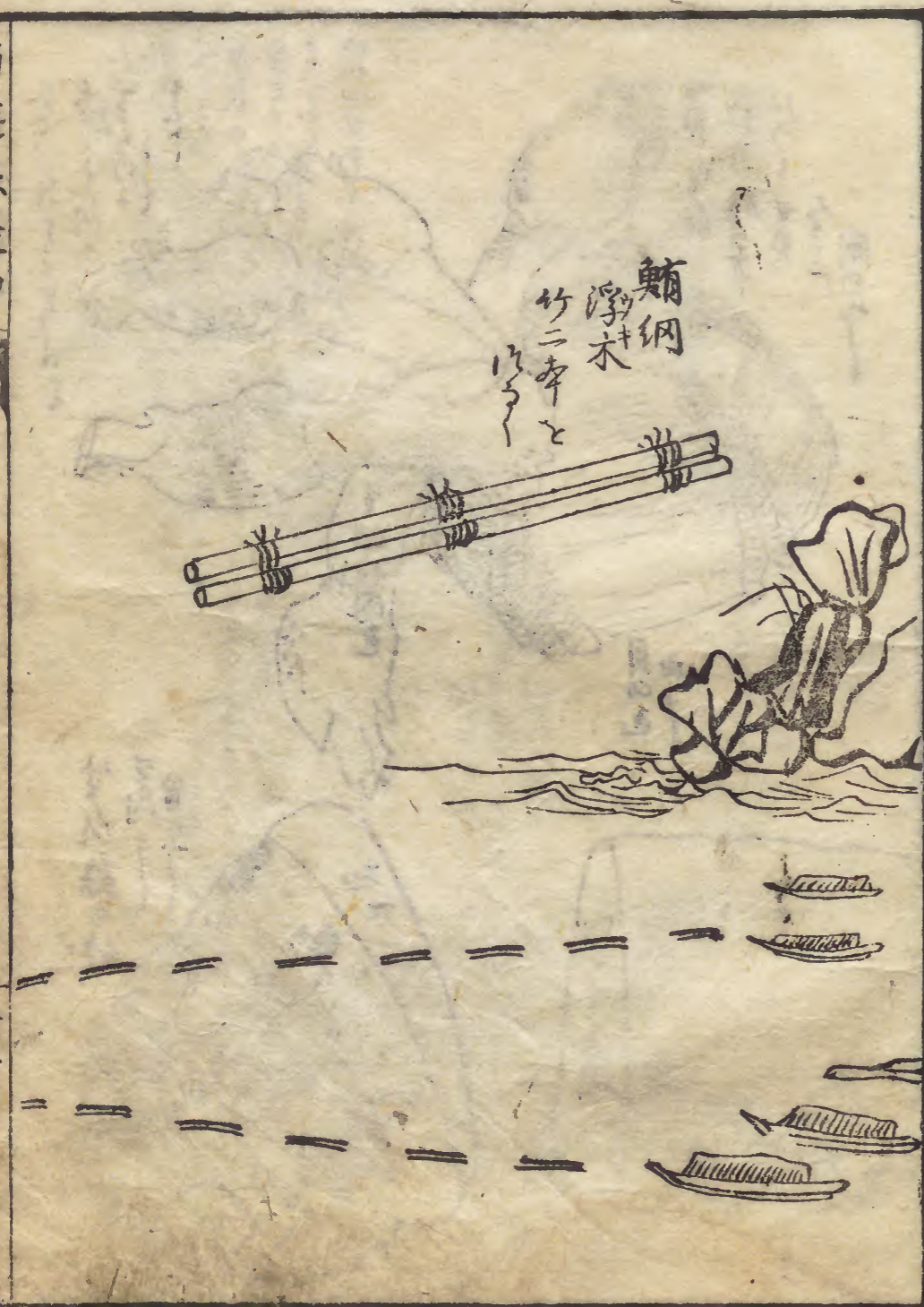
生以世美兒鯨
腹の方一尺五寸
總々餘も卵多に
シレ
文
人の

児鯨
灰色

連銭
中齒アリ
其余齒

長須
腹の方
ウチリ
白

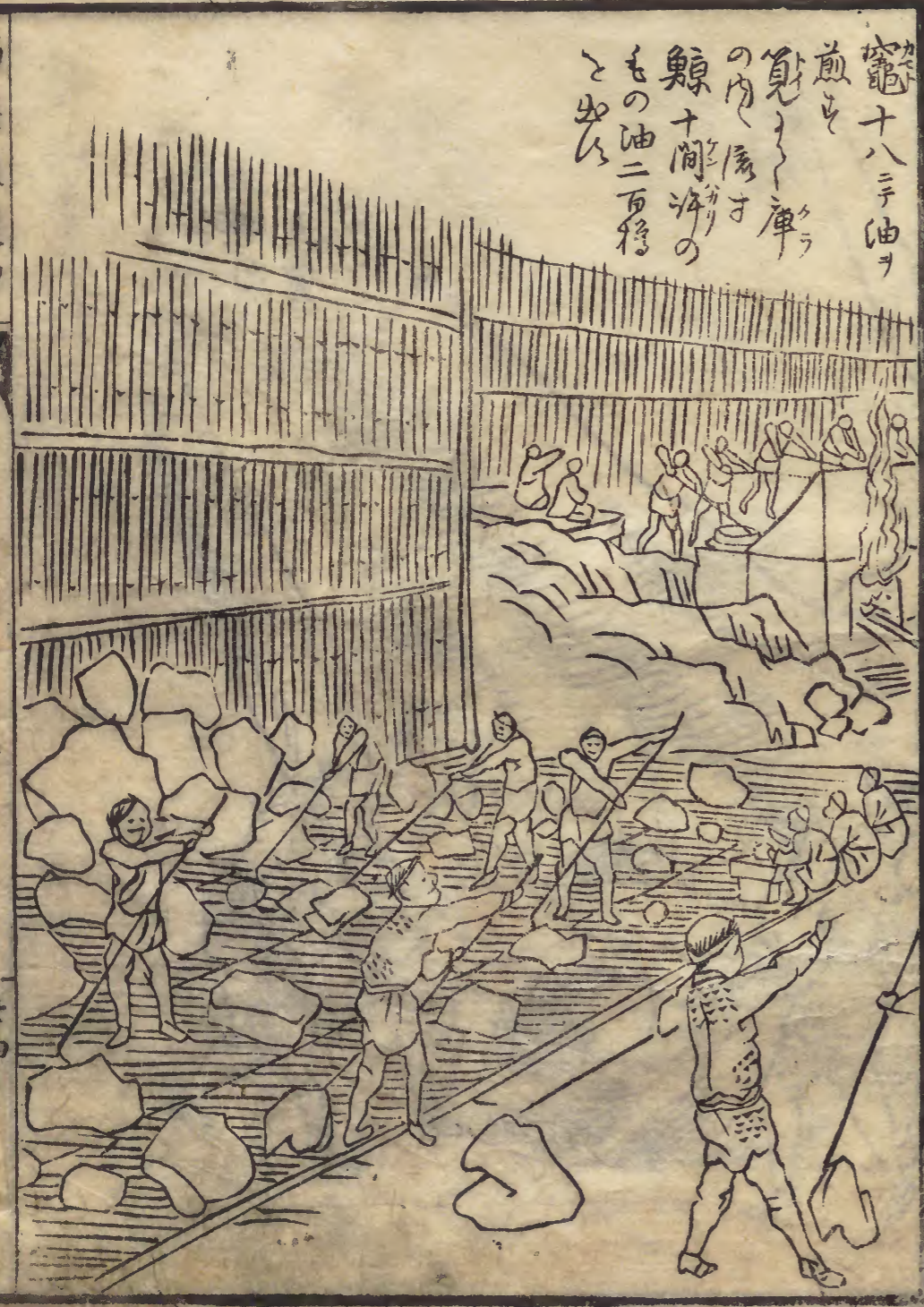
阿蘭陀
書中に
ウチリの
洗方
夜間の聲
の紋
生色灰色
に
の紋
ハコ
コト
ハコ
コト
ハコ
コト



鮪見樓



西長長六六日



竈十八油
煎
煎
の内
鯨十間
もの油二百
と出

十四

正述方説



肉納
之屋
之圖

役人



骨納屋之圖 ホナヤ
又ウケ納屋ノ

ライ鳥

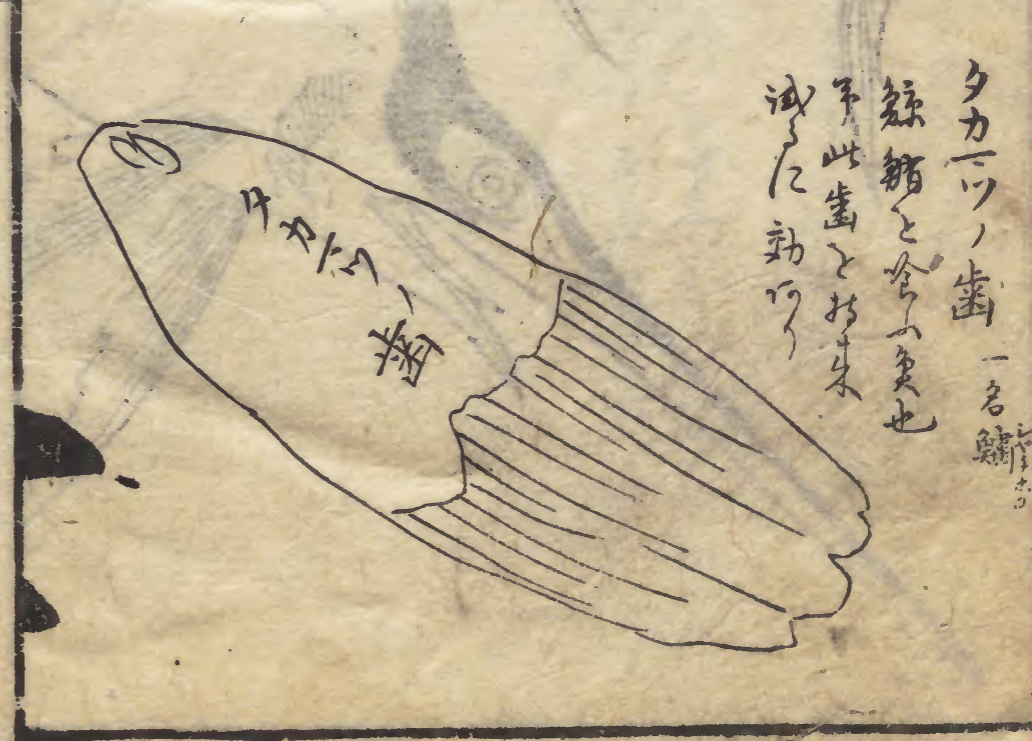
此鳥... 緑の肉を冷やす... 鷗... 歩半...



頭ウス黄

嘴生胭脂ウス色

夕カマツノ歯... 緑箱と冷やす也... 減た効り



夕カマツノ歯

此國ハ此島の漁父に尋く國ハ... 海中に潮を吹きを出し...

夕カマツノ歯... 大廿二間余



西遊記

丈に深^{フシ}て赤^{アカ}壁^{カキ}し^シ録^{ロク}の^ノ名^ナと^トは^ハ油^{アブ}水^{ミヅ}と^トら^ラし^シて

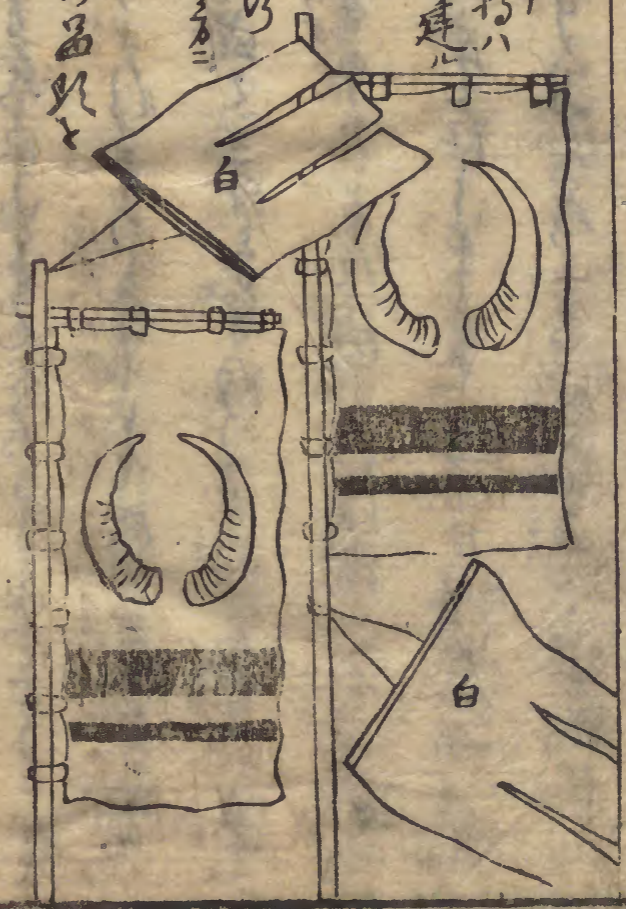
岩^{イハ}壁^{カキ}赤^{アカ}大^{オホ}楮^コ石^{イシ}の^ノあ^アら^ラり^リ画^エの^ノを^ヲい^イれ^レて^テ可^カなり^リ其^{ソノ}あ^アら^ラと^ト先^マら^ラし^シて^テ田^タ助^{スケ}港^{ミナト}に^ニ至^ツる^ル長^{ナガ}崎^{サキ}

乗^ノ舟^{フネ}此^{コノ}夫^{ソノ}より^{ヨリ}舟^{フネ}と^ト出^デて^テ平^{ヘイ}戸^コ城^{シロ}下^ノに^ニ着^ツる^ル

鯨舟旗乃圖

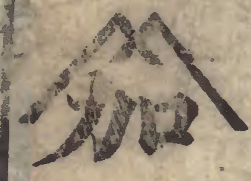
長須子持ハ
トモの方ニ建ル

勢美の^{セツミ}と^トハ^ハ城^{シロ}下^ノと^ト舟^{フネ}の^ノ表^{オモテ}り^リ建^{タテ}ル^ル生^{ナマ}頭^{カウ}ハ^ハト^トモ^ノの^ノ方^{カタ}ニ^ニ建^{タテ}ル^ル皆^{みな}旗^{ノボリ}の^ノ建^{タテ}る^ルこと^ト録^{ロク}の^ノ品^{モノ}と^トし^シて^テある^ルあり^リ



鯨舟の旗あり

原本和^ワ本^{ホン}和^ワ漢^{カン}石^シ摺^ソ法^{ホフ}帖^{テツ}類^{レイ}諸^{シュ}宗^{ソウ}
繪^エ紙^シ於^オ澤^{タク}山^{サン}
仕^シ入^ニ墨^ノ中^ノ度^{タク}間^{カン}於^オ諸^{シュ}書^{ショ}籍^{セツ}新^{シン}在^ニ何^ニ
不^フ少^シ直^{チキ}從^{ジュウ}相^{ソウ}働^{ドウ}賣^{バイ}買^{バイ}仕^シ以^{ヨリ}官^{カン}定^{テイ}少^シ不^フ
限^{ゲン}漸^{ゼン}用^{ユウ}向^{コウ}を^ヲ作^ス下^ノ度^{タク}偏^{ヘン}在^ニ者^ノ假^カ以^{ヨリ}上^ノ



大阪書林

河内屋源七郎

心齋橋通北久寶寺町南江入東側

